

まなびや

「子どもたちと地域が共に成長し、愛され続けるいずみの森の学舎をめざして」

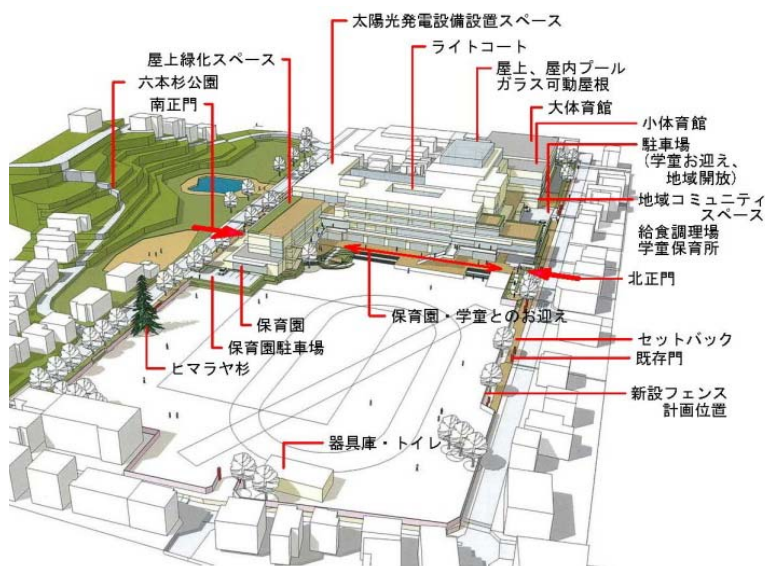
(1) 八王子市立いずみの森小中学校改築基本概要

■計画の背景

八王子市立いずみの森小中学校（第六小学校、第三中学校）は、JR八王子駅南口から徒歩10分圏内に位置し、小学校と中学校が隣接した敷地を活かして平成24年度から小中一貫校として運営している。近年、学区域内の児童・生徒数の増加が見込まれ、既存校舎では教室数の不足が想定されている。また、施設の老朽化が著しい状況であることや、小中一貫校を実施していることから、中心市街地におけるまちづくりと一体化した施設の複合化や、地域拠点化等の先行事例も視野に入れ、小中一貫校としては本市初となる「校舎一体型小中一貫校」の全面改築校として整備を行う計画とした。

■周辺環境

周辺の自然環境は、三方を静かな住宅街に囲まれ、南方面には道路を隔てて東京の名湧水57選の一つである湧水池をもつ六本杉公園があり、四季折々の花が咲き、自然に囲まれた美しい環境となっている。



六本杉公園(左)と既存校舎



湧水池と既存校舎



六本杉公園

■計画敷地概要

所在地：八王子市子安町二丁目19番1号  
(第六小学校)、18番1号(第三中学校)  
敷地面積：15,224㎡(第六小)、10,706㎡(第三中)  
用途地域：第2種中高層住居専用地域

■計画建物概要

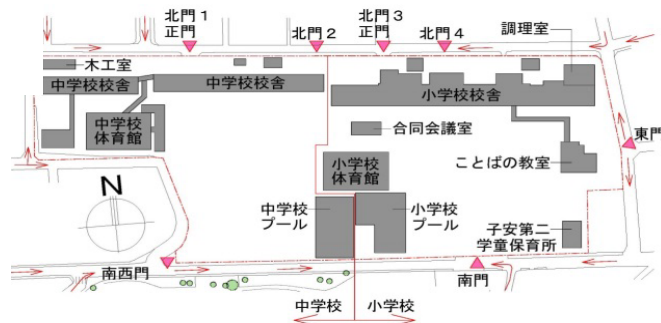
計画施設面積：約18,400㎡(複合施設含む)  
(現状施設約11,300㎡)  
構造・階数：地上4階建て(RC+S造)  
小学校：普通学級30学級、・中学校：普通学級15学級  
特別支援学級：小学校2学級、中学校4学級、  
小学校通級4学級、中学校通級2学級

○複合施設

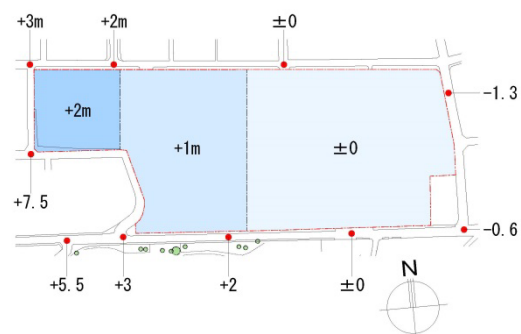
1. 学童保育所 約400㎡
2. 保育園約500㎡
3. 地域コミュニティスペース約120㎡

○改築スケジュール

- 平成27・28年度 基本計画・基本設計
- 平成28・29年度 実施設計
- 平成30・31年度 第三中学校解体・建築工事
- 平成32年度 第六小学校解体・校庭整備工事  
(平成32年4月校舎使用開始予定)



既存校舎配置図



現況敷地レベル

敷地内には高低差が約0~2mあり、また敷地と周辺道路との高低差が部分的に-1.3m~5.5m程度ある。

「小中一貫教育に適した学校施設計画・設計プロセス構築支援事業」  
八王子市立いずみの森小中学校改築基本計画(概要版)

(2) 計画の経緯

小中一貫教育を効果的に導入するためには早い段階から行政だけでなく、小中一貫教育の当事者となる学校、家庭、地域の関係者と、学校施設の計画・設計の検討を進めていくプロセスを構築することが重要である。基本計画の策定にあたり、関係者との合意形成を図り、良好な小中一貫教育を実施する施設環境を確保するため、平成27年7月から平成28年2月まで、いずみの森小中学校改築検討委員会(以下「改築検討委員会」)を主体として協議・検討した。その協議内容はいずみの森小中学校施設整備委員会(以下「施設整備委員会」)に諮り、検討を進めた。また、八王子市立小中一貫校(校舎一体型)の教育課程等検討委員会、関係各課における協議内容を改築検討委員会や施設整備委員会に報告した。

■いずみの森小中学校改築検討委員会

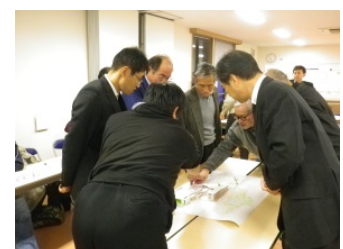
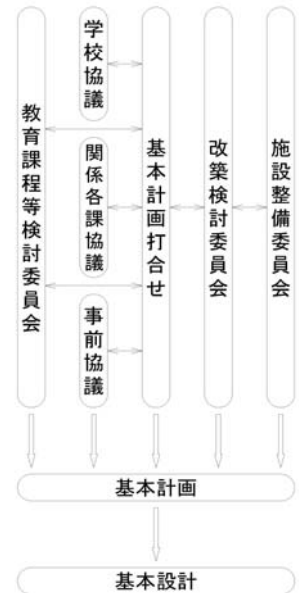
目的：有識者や学校、家庭、地域等の関係者と行政関係者等により、現状の問題点及び基本コンセプト等の具体的な計画の内容、整備後の施設運営等について意見を交換し、合意形成を図った。

開催日程・期間：月1回程度(平成27年7月～平成28年2月、8回)

委員構成：有識者、有識者、いずみの森小中学校長・副校長、PTA会長代表、学校評議員、町会長等

■計画協議工程表 地域の方が多く参加する、改築検討委員会を主に下記の表に協議工程をまとめた。

	改築検討委員会		施設整備委員会	基本計画打合せ	その他協議
	開催日	議事内容			
H27年 7月	7/29 第1回	・改築検討委員会設置要綱、事業概要、今後のスケジュールの説明 ・「子ども、教職員、地域の夢を育む学校づくり」について	7/28 第1回		
	8/27 第2回	・グループ討議・発表 ・小中一貫校の学校づくりについて ・改築に関するアンケート配布 ・敷地周囲環境について 意見交換			
	9/10 第3回	・基本コンセプトについて ・建物配置計画について ・アンケート結果について報告 ・敷地周囲の課題を説明・討議	9/14 第2回	第1回 9/2	アンケート実施 9/2 対象：学校教職員、生徒、保護者 改築委員
	9/29 第4回	・基本コンセプトについて ・建物配置計画4案討議		第2回 9/14	
	10/29 第5回	・基本コンセプトについて ・複合化施設について ・仮設校舎配置討議 ・模型を使って計画説明	10/5 第3回	第3回 10/5	
				第4回 10/16	
	11月	11/26 第6回	・施設見学について報告 ・建物の配置計画について ・複合化施設について ・校舎、複合施設ゾーニング計画について説明・討議 ・模型を使っての計画説明 ・プール屋外屋内他比較説明	11/2 第4回 11/30 第5回	第5回 11/2 第6回 11/10 第7回 11/17 第8回 11/20 第9回 11/30
12月	12/22 第7回	・複合施設分を含めた基本コンセプトについて ・教育課程等検討委員会報告 ・校舎、複合施設ゾーニング計画について説明・討議 ・模型、3D画像、動画を使って説明 ・講評	12/25 第6回	第10回 第11回 第12回	教育支援課 12/11 水循環整備課 12/11 保健給食課 12/11 児童青少年課 12/25 保育対策課 12/25
	H28年 1月				開発審査課 1/22 保育園、学童視察 1/22
2月	2/25 第8回	・組織改正について報告 ・基本、基本計画の報告	2/29 第7回	第13回 2/4	開発審査課 2/4 保健給食課 2/4 緑化、ゴミ、雨水、下水池 2/4 川崎市立子母口小学校視察 2/19



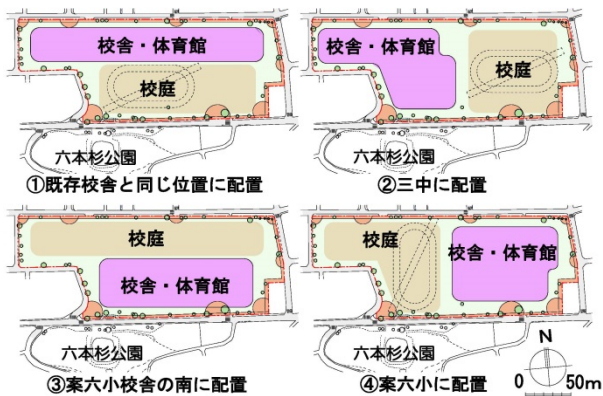


「小中一貫教育に適した学校施設計画・設計プロセス構築支援事業」  
八王子市立いずみの森小中学校改築基本計画(概要版)

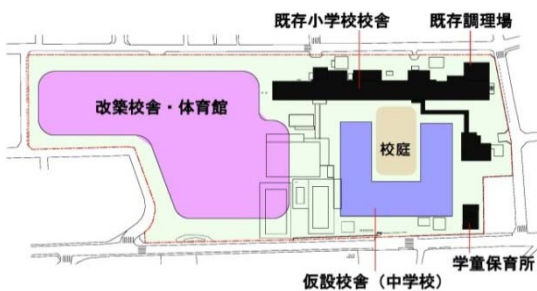
■改築検討委員会協議内容



第2回：計画敷地の課題を現状写真を見ながら協議し、安全、防犯面で計画の基本に重要な地域からの視点の意見が多数聞くことができた。

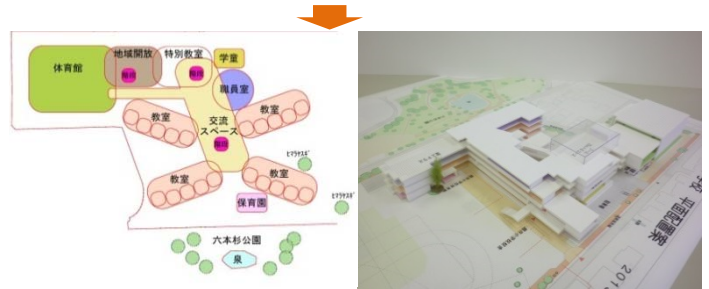


第3回：討議の中から配置4案が提案された

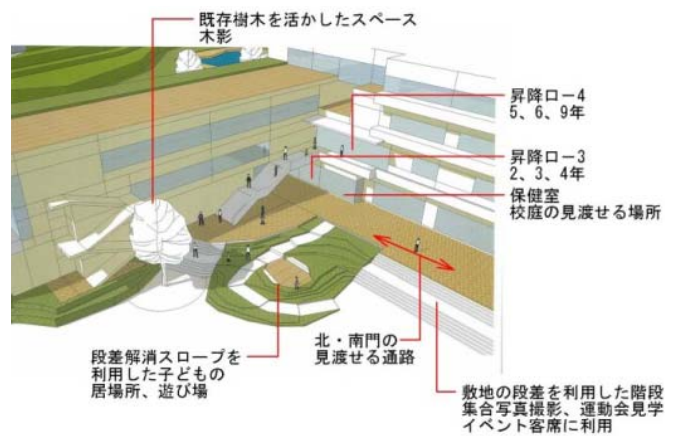


第4回：協議の上、配置2案を基に要求施設面積等を踏まえ、仮設校舎利用も含め検討を進めることとした。

第5回：生徒の環境、安全性、給食、経済性から別敷地に仮設校舎を利用した改築工事を検討することとした。また施設配置、複合施設配置等も協議した。



第6回：プール屋外・屋内等仕様検討。同規模小中学校施設の見学報告、諸室構成・配置・各階ゾーニングについて図面、模型を使用し、高さ等ボリュームの確認・協議を行った。



第7回：前回までの協議内容、意見、要望をまとめた計画案を提案。平面図、模型、3D動画を使って説明を行い、協議した。

(3) 設計プロセスの考察

小中一貫教育の意義と効果を高め、また計画の問題点を解消するためには、教職員をはじめ、地域の方々の参画が不可欠であった。改築検討委員会では出席者全員が毎回活発に意見を出し合い、建設的な議論が進み、協議を重ねることでコンセプト、問題点を共有することができ、参加者の想いを形にする方針を示すことができた。町内会長、PTA、子育てに携わってきた方、様々な立場からの地域の実情、利用者としての意見、学校と複合施設等の地域開放、具体的な利用がイメージできる意見を伺うことができた。検討を段階的に進めて策定した基本コンセプトは共通の目的意識を持って、様々な考え方をを持った人が計画を進める上で常に判断の拠り所となり、計画の基本理念、具体的な計画を進めていく考えの骨格となった。また、改築検討委員会での進行役である、委員長・副委員長が地域の方であったことが出席者それぞれの思いを議論し易い環境にしていた。

## (4) 施設整備方針

小中学校の施設一体化と複合化により、これまで以上に学校の教育活動、地域の活動の幅が広がり、充実が図れる計画とする。改築検討委員会、施設整備委員会等で協議、策定した基本コンセプトを具体的に計画に反映することを踏まえて、以下の施設整備方針（一部省略）をまとめた。

メインテーマ 「子どもたちと地域が共に成長し、愛され続けるいずみの森の学舎をめざして」

### 1. 子どもたちが毎日、明るく、楽しく通える学校

- ・子どもたちの様々な居場所がある施設とする。 ・世代を超えて利用でき、思い出に残る施設とする。
- ・小中共用、複合施設の共用部分を設け、交流による教育的な効果と、施設のコンパクト化を図る。
- ・ICT教育環境、アクティブラーニング等、変化していく利用形態に対応した施設とする。

### 2. 水と緑豊かな自然と調和した学習環境

- ・六本杉公園の水、緑、敷地内既存樹木を活かし、自然環境に調和した施設とする。
- ・自然採光・通風・換気を活かし、自然エネルギーを効果的に利用し環境負荷の軽減を図る。
- ・仕上げ材に木を積極的に使用し、温かみのある施設とする。

### 3. 小中一貫校ならではの9年間のつながりとふれあいの空間づくり

- ・小中の施設を共有化することで質の高い学習空間を創出する。 ・お互いの活動・様子が分かる施設とする。
- ・教室、各フロアを異なる設えとし、成長していく実感が得られる施設とする。

### 4. ユニバーサルデザインや防犯面に配慮した安全安心に過ごせる学校

- ・誰もが利用しやすいようバリアフリーに十分配慮した施設とする。 ・防犯上管理し易い動線計画とする。
- ・敷地の高低差を活かし、子どもたちの活動の場、遊びの場を計画する。

### 5. 防災拠点やコミュニティ形成を図る地域の核となる学校

- ・地域住民が安全に安心して生活できるよう、地域の防災拠点となる施設とする。
- ・地域と子どもたちの交流を育み、地域から子どもたちの活動をあたたかく見守ってもらえる施設とする。

## (5) 基本計画案

### ■施設の基本的な構成

- ・1学年5クラスを想定し、廊下を単なる通路とならないようワークスペースとしたクラスターを一つの学習空間とする。その9学年と特別支援教室のクラスターを生徒の交流の場となる共用スペースでつないだ構成とする。
- ・1階には地域開放や利用面から給食調理場、学童保育所、保育園、地域コミュニティスペースを、安全面から低学年教室、特別支援教室を配置する。体育館も防災の拠点として1階に配置する。

